

日本民俗学会 第72回年会 愛知

第1回 サーキュラー

新型コロナウイルス感染症の先行きがなかなか読めない状況の中、みなさま、いかがお過ごしでしょうか。5月10日に開催された理事会での検討の結果、現段階の判断としましては、予定通り「日本民俗学会第72回年会」を開催することといたしました。本年は愛知県名古屋市の愛知大学名古屋キャンパスを会場とし、年会全体のテーマを「食と環境—魚食文化による里海の保全と実践活動」といたします。多様なお発表を歓迎いたしますので、以下の要領をご参考に、みなさま奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、今後の感染症拡大の状況によりましては、年会の開催規模の縮小や開催中止の可能性も否定できません。この点につきましては変更があり次第、今後のサーキュラーや学会ホームページなど、しかるべき手段を通じてお知らせいたします。

一般社団法人日本民俗学会 第32期会長 鈴木 岩弓

主催 一般社団法人日本民俗学会

協力 愛知大学

期日 2020年10月3日(土)・4日(日)

会場 愛知大学名古屋キャンパス(名古屋市中村区平池町4丁目60-6)

※JR名古屋駅前に近く、秋季の土・日曜日は宿泊施設の不足が予想されます。早めの予約をお願いいたします。

実行委員会では、宿泊等の斡旋は行いません。

会場アクセス

・鉄道をご利用の場合

「名古屋」駅桜通口より徒歩約10分

あおなみ線「ささしまライブ」駅下車 歩行者デッキ直通

近鉄「米野」駅下車 徒歩約5分

名古屋駅からはあおなみ線のご利用をおすすめします。土・日曜日のあおなみ線は15分に1本(1時間に4本)しかありませんので、ご注意ください。

・バスをご利用の場合

ささしまウェルカムバス「ささしまライブ」下車

名鉄バス「愛知大学前」下車

名古屋市営バス「ささしまライブ」下車

※愛知大学ウェブサイト名古屋キャンパスへの交通アクセスのページもご参照ください。

<http://www.aichi-u.ac.jp/profile/campus/nagoya>

年会事務局

〒466-8666 愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2

中京大学文学部歴史文化学科 小早川道子研究室気付

日本民俗学会第72回年会実行委員会事務局

電話 052-835-7111 (中京大学代表)

※学内での郵便事故に備え、上記宛名は省略せずにお書きください。

連絡はなるべく E-mail でお願いします。

E-mail:minzokugaku72@gmail.com

プログラム

10月3日(土)

8:30～	理事・評議員受付(本館研究棟2階ホール)
9:00～9:30	理事会(本館研究棟3階 L306)
9:45～12:00	評議員会(本館研究棟3階 L306)
12:00～	会員受付開始(本館研究棟2階ホール)
13:00～16:00	公開シンポジウム(グローバル・コンベンションホール) 「食と環境—魚食文化による里海の保全と実践活動」
16:15～17:50	研究奨励賞受賞式・会員総会(グローバル・コンベンションホール)
18:00～20:00	懇親会(愛知大学名古屋校舎本館厚生棟1階 キャンパスレストラン)

10月4日(日)

9:00～	受付開始(本館研究棟2階ホール)
9:30～12:00	研究発表(本館研究棟3階)
13:00～16:00	研究発表(本館研究棟3階) (午後)人類学関係学会共同シンポジウム「性差」 (午後)東海地方民俗学会シンポジウム「東海地方の魚食文化の民俗」

※今年度の年会は、見学会を企画しておりません。

※開始・終了時刻は現時点での予定です。発表プログラムは9月中旬に参加等申込者に送付する予定の第3回サーキュラーでお知らせいたします。

参加・発表申し込み

- 参加・発表を希望される方はオンライン申し込みフォームよりお申し込みください。
「日本民俗学会ウェブサイト」(<http://www.fsjnet.jp/>) →
「日本民俗学会第72回年会ウェブサイト」 → 「参加・発表申し込み」の順にお進みください。
- オンラインでのお申し込みは **2020年6月26日(金) 23:30** までに送信してください。
- オンライン申し込みをご利用いただけない場合は、同封の返信用葉書に記入し、切手を貼ってご投函ください。期限は **2020年6月26日(金)** 必着とします。
- 参加・発表の申し込みはオンラインか返信用葉書かのどちらか一方をお願いいたします。できるだけオンラインでの申し込みをお願いいたします。
- 所属の記載方法についてはサーキュラー末尾の「所属の表記について」をご参照ください。

- ・出張依頼状が必要な方は所定欄にチェックを入れて、宛先を記入してください。
- ・託児室の利用を希望される場合は所定欄にチェックを入れてください。
- ※ 返信用葉書を住所変更通知など年会業務とは無関係の連絡には使用しないよう、お願い申し上げます。
- ※ お送りいただいた個人情報については、第 72 回年会に関わる事務においてのみ使用し、別の用途に使用することはありません。
- ※ 第 2 回以降のサーキュラーは参加等申し込みをされた方のみにお送りいたします。サーキュラーは年会ウェブサイトにも掲載します。

参加費

年会参加費	前払い	当日	
会員（一般）	4,000 円	5,000 円	
会員（学生）	2,000 円	3,000 円	
非会員（一般）	—	5,000 円	（当日受付のみ）
非会員（学生）	—	3,000 円	（当日受付のみ）
懇親会参加費	前払い	当日	
会員（一般）	5,000 円	6,000 円	
会員（学生）	2,500 円	3,000 円	
非会員（一般）	—	6,000 円	（当日受付のみ）
非会員（学生）	—	3,000 円	（当日受付のみ）
4 日（日）弁当代	700 円	—	（当日販売なし）

- ※ 会場の愛知大学名古屋校舎内にコンビニが、大学近くに飲食店もありますが、大学内の食堂は土日とも閉店しています。弁当の事前申し込みをおすすめします。
- ※ 年会参加費・懇親会参加費・4 日弁当代ともに、納入期限は 8 月 11 日（火）です。期日にて振込み口座を閉鎖いたしますので、それ以降は年会当日に当日料金でお支払いください（ただし、弁当の当日販売はいたしません）。
- ※ 一度納入いただいた参加費等はいかなる理由があっても返却いたしません。あしからずご了承ください。
- ※ 納入方法は、7 月下旬に参加等申込者に送付する予定の第 2 回サーキュラーにてお知らせいたします。

研究発表形式

一般発表

- ・発表 20 分・質疑応答 5 分・移動 5 分を 1 ユニットとします。
- ・一般発表を行う方はオンラインもしくは同封の返信用葉書にてお申し込みください。
- ・発表内容は日本民俗学会および関連する諸学会等において、未発表のものに限ります。重複発表が判明した場合は、参加費の納入の如何にかかわらず、発表をお断りします。
- ・備え付けの機材は PC（Windows）と PC 用プロジェクターです。機材の使用を希望される方はオンライン申し込み画面または返信用葉書の所定欄にチェックをしてください。
- ・発表は日本語でお願いします。

グループ発表

- ・統一テーマのもとで 4 名以上の発表者からなるグループ発表を受け付けます。うち 1 人をグループ発表の代表者としてください。
- ・グループ発表の場合、代表者の方だけでなく、その他の発表者の方も「研究発表申し込み」を行っていただきます。オンラインもしくは同封の返信用葉書にてお申し込みください。
- ・グループ発表の時間枠は 120 分となります。枠内の時間配分は代表者にお任せいたします。
- ・グループには適宜、司会を設定していただくことができます。司会自体の登録は必要ございませんが、プログラムへの記載もいたしません。なお、学会側からの座長の配置はいたしません。
- ・グループ発表で使用できる機材は一般発表に準じます。

※ 個人発表とグループ発表、両方での発表はできません。

※ 発表要旨は年会より前（9 月）に年会ウェブサイト上にて PDF ファイルで公開します。年会終了後も当分の間、掲載を続けます。

発表資格

- ・第 72 回年会における発表資格条件は、2020 年 5 月末日時点で 2020 年度の会費を納入済みの会員および名誉会員です。
 - ※ 新入会員については、2020 年 5 月 10 日開催の理事会で入会を承認されている必要があります。
- ・期限（8 月 11 日（火））までに年会参加費の納入および発表要旨の提出がない場合、発表は自動的にキャンセルとなりますので十分ご注意ください。

託児室の申込み

会場には託児室を設置する予定です。会員の方が会場で託児室の利用を希望される場合、年会参加申し込み時にその旨ご連絡ください。具体的な申し込み方法は、第 2 回サーキュラーにてお知らせいたします。

書籍販売の申込み

- ・会員および出版社の方が会場で書籍の販売を希望される場合、年会ウェブサイトに掲載する「書籍販売登録票」にご記入の上、8 月 28 日（金）までに年会事務局宛に申し込んでください。具体的な申し込み方法は第 2 回サーキュラーにてお知らせいたします。

今後の日程

オンライン申し込み期限	6 月 26 日（金）23 : 30
返信用葉書郵送期限	6 月 26 日（金）必着
第 2 回サーキュラー	7 月下旬発送予定（参加等申し込みの方のみ）

内容：参加費等納入方法、その他年会参加に関する連絡事項、発表要旨の提出方法、発表要領、託児室の利用について、書籍販売申し込み要領、出張依頼状（希望者のみ）

参加費等納入期限 8月11日（火） これ以降は当日料金になります。

発表要旨提出期限 8月11日（火）

書籍販売申し込み期限 8月28日（金） 書籍販売登録票提出

第3回サーキュラー 9月中旬発送予定（参加等申し込みの方のみ）

内容：会場案内、発表要領、各発表会場プログラム

公開シンポジウム

「食と環境—魚食文化による里海の保全と実践活動」

主旨

日本の魚食文化は、古くは縄文時代にさかのぼることができる。日本には貝塚が多数みられ、漁業技術も発達していたと発掘成果から読み解くことができる。やがて仏教思想が伝わって肉食が禁止され、神饌は魚介類が中心となっていく。平安時代の『延喜式』の記録では、西日本を中心に多くの魚介類と魚介類の加工品が都に届けられ、近世には魚介類は贈答品にも使われ、『毛吹草』（1638）には諸国名物の魚介類と魚介類の加工品が紹介されている。同書には諸国名物の農産物も紹介するが、京野菜の産地である山城国を除くと圧倒的に魚介類が多い。魚介類の加工品が多いのはひとえに肉より保存が容易であったことに起因し、その伝統は現代にも続いている。このように日本人にとって魚食文化は重要な役割を果たしてきたにもかかわらず、近年、魚食文化の評価があまり高いとはいえない。

一つには日本の魚食文化についての総合的な調査研究が少ない。話題になるのは漁業なら大間のマグロ、食なら回転寿司ぐらいである。その背景にあるのは魚食文化の調査が儀礼食に偏っていたことに他ならない。柳田国男編『海村生活の研究』（1939年）で取り上げられている内容は多岐にわたるが、食は儀礼食が少し登場するにすぎず、古老が伝える儀礼や儀礼食に調査が集中する傾向がみられた。庶民が「生きるために食べた」イワシやイカについて調査されることはなかった。

魚食が盛んな日本は世界最大の漁業国でもあったことを忘れていないだろうか。日本近海で暖流と寒流がぶつかることで栄養豊富な魚介類が豊富にとれ、多くの郷土食が日本各地に生まれた。ところが高度経済成長期の人々の生活の変化や海洋汚染などで海と人の関わりが急速に薄れていった。スーパーマーケットに置かれる魚介類もグローバル化の影響で一年を通じて変化に乏しくなり、旬が感じられなくなった。海外での健康食ブームで魚食が注目され、魚介類の消費量が増大し、養殖魚が増えて効率的で低価格で提供されるようになった。世界の水産資源は漁業技術の発達や乱獲などでもはや限界を超えている。産業資本にとって都合のよい販売方法が、流通や漁業、海の利用のあり方にまで影響を与え始め、魚食が遠く離れた海の環境悪化に直結するようになった。

海がかかえる課題にいち早く気づいたのは高度経済成長期の漁村の人たちであった。漁民は皆、海水汚染や沿岸域の埋め立て、魚の奇形や漁獲量の減少を容易に見聞きし、体験してきたことであった。海に浮かぶ島国に住む日本人は海洋汚染や、それによる漁獲高の減少、魚食文化の衰退は無関心のままであった。また、現在の気象変動による海水温の上昇やマイクロプラスチックゴミなど

の海洋汚染などもあり、世界規模で取り組まなければならない。それでも魚食を好む日本人として美味しい魚をこれからも食べ、魚が群れているきれいな里海をながめていたい。そのために市民でもできる活動の一つとして生産性の高い干潟の保全や稚魚がむれる藻場の管理などがある。

現在の日本の伝統的な魚食文化は細々ながらも高度経済成長以後も地域で継承されてきたものである。たとえば、福井のへシコは成分の科学分析で健康食と認められ、産業化してまちおこしに貢献しているし、イカナゴのくぎ煮は、養殖魚の餌であったものを漁師料理に学び加工食品にすることで資源保護に役立っている。また、発酵技術の活用で産業廃棄物として捨てていた水産加工品のゴミを魚醬にかえた例もある。このように伝統的な魚食文化を現代社会に蘇らせ、新たな価値を生み出す動きは始まったばかりである。

現在、日本「食」と「環境」は大転換期を迎えている。食と環境のシンポジウムは多いが、より具体的な魚食文化への討論をとおして日本の里海の課題を明確にし、伝統的な生活文化の継承や環境の保全についてどのように実践すればよいのかを見つめなおす機会を作り出したいと考えた。2013年に「和食＝日本人の伝統的な食文化」が世界無形文化遺産に登録された。世界遺産への登録は、日本料理が世界的に高く評価されたことによるが、一方で家庭料理や地域食の崩壊をなんとか回避して継承しようとする側面もあった。

伝統的な里海の多様な価値を再評価し、アイデアを出しあい、身近な海里山の原点を見つめなおし、生きるための食や環境を考え、新たな実践につなげてゆくことが必要であり、議論を深めていきたいと考えている。

日時 2020年10月3日(土) 13:00~16:00

会場 愛知大学名古屋キャンパス (愛知県名古屋市中村区平池町4丁目60-6)

パネリスト等

司会	未定
主旨説明	印南敏秀 (愛知大学)
パネリスト	鷺尾圭司 (水産大学校)
	上田勝彦 (東京海洋大学)
	野林厚志 (国立民族学博物館)
	越智信也 (神奈川大学日本常民文化研究所)
コメンテーター	未定

所属の表記について

すでに会誌『日本民俗学』や日本民俗学会ホームページに掲載してお知らせしておりますとおり、第29期理事会は、2014年7月13日に「日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明」を公表しております。

この声明にもとづき、第67回年会から、参加登録の際の記名、名札、発表要旨集、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、各人の帰属意識に基づいて主体的かつ自由に表明していただくことになりました。

参加登録の際の「所属」欄をはじめ、発表要旨集、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、たとえば、つぎのようにお願いいたします。なお、所属・肩書き・立場性の表明は、原則として一人一つでお願いします。

例：山田 太郎（〇〇市立博物館）、山田 花子（〇〇大学大学院生）、山田 太郎（〇〇民俗学研究会）、山田 花子（〇〇県）、山田 太郎（NPO 法人〇〇）、山田 花子（自営業）、山田 太郎（株式会社〇〇）、山田 花子（会社員）、山田 太郎（インディペンデント・フォークロリスト）、山田 花子（〇〇大学非常勤講師）など

<参考>

日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明

日本民俗学会は、多様な社会や組織に帰属し、多様な帰属意識を有する人びとによって生み出され、発展されてきた歴史をもつ。この会員の属性、帰属意識の多様性は、現在でも顕著であり、日本民俗学会の大きな特徴となっている。私たちは、この会員の属性、帰属意識の多様性を尊重する。

さらに私たちは、日本民俗学会の活動の場において、会員が自己の所属、肩書き、立場性等を、各人の帰属意識に基づいて主体的に表明する自由を保障する。

2014 年 7 月 13 日

第 29 期日本民俗学会理事会

